

## 通訳者報告会内容（当会主催講習会にて）

2018 2 18

通訳実践者 15 人からご意見を伺いました。（県登録通訳者および会登録通訳者双方）

### 患者さんの立場から：

患者さんは困っている。  
通じない。  
患者には通訳が必要。  
医師の説明が理解できないのが一番困る。  
患者が 2000 円を払っているのだから、患者が通訳者を選ぶ権利はある。  
病気の時に通訳のことで悩む患者さんのことを考える必要がある。  
病院に患者さんが直接電話しても通じない。

### 病院の立場から：

医師からは何度も同じ説明は面倒だから、同じ通訳をお願いしたいといわれる。  
K 病院、S 病院は病院負担がある。

### 通訳者の立場から：

大変な仕事だけれど大切。  
多くの情報を理解する必要がある内容が出て困った。  
30 年以上ボランティアをしている。お金をもらうことが心苦しい。  
英語は医師も看護師も勉強しているので、通訳の間はテストを受けているよう。  
インドや南アフリカの方など、国のなまりのある英語は聞きづらい。  
高度な医療英語は患者には通じないため、優しく言い換えることが必要。  
医師と患者の話の調整役となっている。  
診療、オペ、相談を通訳。  
患者さんの帰国後の生活に及び、本国と日本の保険の違いへの理解も必要だった。  
単語力と英語力、いろいろな国の方の英語を聞き取るヒヤリング力が必要。  
制度についての話だった。  
特に問題はなかった。  
精神保健福祉法に基づく制度のお話など、そのままの通訳は難しい。  
困ったことはない。

### ○対病院：

○病院の姿勢は疑問を感じることもあり。  
出産がらみで病院から直接依頼の電話が入った。  
イスラム教徒の食事など、直接保健師から電話がありばたばたした。  
医師や看護師は専門用語で話をする。優しい日本語で伝える努力をしてほしい。  
待ち時間が長く、予定時間を大きく超えた。  
患者の勤務先関係者が入り、話が複雑になり、直接の依頼も受けた。  
通訳者の仕事の範囲を超えた依頼があった。

依頼が現場で次から次にあり、困った。

手術後の説明は、麻酔が切れるタイミングのずれもあり待ち時間が長くなった。

医師も優しい人、厳しい人など様々。

当日の依頼がある。

保健師と患者の関係がよく、何でも話せる雰囲気が良かった。

通訳がないために妊婦検診の検査日程が遅れ、医師から困るといわれた。

家族の通訳では正確でない、病院は医療訳が必要という状況を考える。

○対患者：

患者から「訳に違いがある」と言われることがある。

お金がない人はお金を払いたくない。日本人のボランティアならばお金を払わなくてよいという見方をする人がいる。

個人情報であり、どこまで聞いてよいか迷ったが、患者さんが自分から待ち時間に病状について話してくれた。

精神病院での通訳で、患者さんの異常行動が怖かった。

○対制度：

県の名札を使い名前が出たことがあった。

患者さん情報が不足していることがある。(会注記：SW と現場の情報量の違い。)

患者用説明書の説明をする余裕がないことがある。

コーディネーターがない場合、患者との待ち合わせができなかったことがある。

患者が通訳者が日本人であることを了解していなかった。患者の希望は確認してほしい。

誰のための通訳なのか。病院が払うべき内容の通訳もある。

女性通訳者がいないので男性が婦人科の検診の通訳をしている。

本当に通訳が必要だったのかと思う時もある。